

佐倉福音キリスト教会

サクサク通信

2020年11月号(第71号)



牧師：大高 伊作

電話：043-461-2983

住所：佐倉市白井田 774-83

mail: isaku.sakura.church@gmail.com

HP : <http://sakura-fukuin.com>



今月の聖書のことば

「あなたのみことばは 私の上あごになんと甘い
ことでしょう。蜜よりも私の口に甘いのです。」

【詩篇 119 篇 103 節】

聖書を手に取られたことはあるでしょうか。私の手元にある聖書は旧約聖書で 1635 頁、新約聖書で 519 頁あり、両方合わせると 2154 頁になります。これだけの頁数になる本は辞書ならばともかく、読み物としてはなかなかないように思います。当教会では、年の初めに一年間で聖書を全て読めるようにスケジュールされた冊子を置いておき、希望する方は自由にとって頂いて一年間で通読することを励ましています。心新たに年の初めに創世記から読み始めるのですが、理解の難しい箇所につつかりと挫折してしまうなんてことも少なくありません。私は、聖書を読むことに難しさを覚えている方には「分かって分からなくとも、とにかく読み続けて下さい」とお伝えしています。それは、「わからない」という

理由で読むことを止めてしまえば、そのままになってしまうので、いつか分かるようになるまで忍耐強く読み続けるように励ましています。また、聖書は神のことばであり、言い方を変えますと、神から私たちへの手紙だからこそ読み続けてほしいのです。手紙の分量としては膨大であり、しかも理解が困難な箇所もあるのですが、ここまで読み継がれ続けているのには理由があります。今月の聖書のことばには詩篇のことばを掲載しましたが、詩篇の作者は、あなたのみことば(聖書)は、私の上あごになんと甘いことでしょう、と言っています。「上あご」というのは直訳でありまして、意識している聖書では「舌」と表現しています。もちろん聖書は実際の食べ物ではありませんが、みことばは「糧(食べ物)」と言われま

す。私たちが生きる上で食事が欠かせないように、聖書のことばは私たちにとって霊の食べ物と言えます。そして、その食べ物は私たちの口には大変甘い、つまり美味しい食べ物なのです。ただ、食べ物が美味しいか不味いかという「味」については、口に入れてみないと分かりません。もちろん実際の食べ物は見た目も重要ですが、口に入れてみないことには本当の評価はできません。同様に、聖書も見た目は分厚いものであり、とっつきにくさが際立っていますが、口に入れてみると（実際に読んでみると）密よりも甘いのです。

先ほど書きましたが、聖書は神からの手紙です。シャレた言い方をする人は、「神様からのラブレター」なんて表現する人もいます。これは実際に読んでみると分かるのですが、本当にそう思えることがあります。私たちは必ずしも元気な時ばかりでなく心が沈む時、不安な時がありますが、そんな時、いつもの日課で開いた聖書の箇所が慰めと励ましに満ちているということがあり

～集会案内～

○日曜日：第一礼拝 9:00～ 第二礼拝 11:00～ ○水曜日：聖書研究祈祷会 10:30～12:00
教会学校 10:10～10:40（現在は子どものみ） 19:30～21:00
○毎月第2火曜日：ユニケの会 10:30～12:00（休止中。子育てなどを行っている方のための集い）

聖書に関する疑問等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。また、当教会は、エホバの証人やモルモン教、統一教会等とは一切関係のない、プロテスタントキリスト教会です。

ます。「神様は私のことを見ておられ、状況をご存知でいてくださる」と心から思えることがあります。それは本当に感動的なことです。もちろん毎回そのように思えるわけではなく、何を言っているのかサッパリ分からないということもあります。しかし、一度でもその感動を味わうならば、聖書の素晴らしさに目が開かれます。目には見えない神様が生きておられ、私たちと共に歩んでくださっていることを味わえることは幸いなことです。この感動を多くの人に味わってほしいと願います。聖書は難解な部分もありますので、読んでみて疑問がありましたらいつでもお尋ねください。

◆コラム

私たちは聖書を「読み物」として理解していますが、実際に聖書を手元に置けるようになったのは、印刷技術の発展があつてのことです。聖書が書かれた当時は「聞くもの」（読み書きできる人が代表して読む）であつて、聞いて耳に残るような工夫がされています。その点で、聖書は「読む」のではなく「聞く」ものだと主張する方々もおられ、むしろ誰もが手元において読めるようになったことで、聖書を軽んじる人が増えたのではないかと言われたりします。しかし、印刷技術の発展も神様の恵みとして起こつたことであり、いつでも神様からの声を聞くことができるようになったことは感謝すべきことです。更に多くの方々に聖書に触れて頂きたいと願っています。